

**問 1. 個人の尊厳と自立に関する基本的な考え方について、適切なものを 1 つ選択しなさい。**

- 1) 日本国憲法第 13 条第 1 項では、「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」と謳われている。
- 2) 医療提供の理念等を定めた法律は、介護保険法である。
- 3) 社会福祉や医療の分野において、めざす理念は過去から現在に至るまで一貫している。
- 4) 病気や障害があっても、利用者一人ひとりの「個人の尊厳」は保障されなければならない。

**問 2. 医療の担い手が守るべき倫理上の原則について、誤っているものを 1 つ選択しなさい。**

- 1) 医療の担い手は、医療を受ける者の不安や苦痛に共感するとともに、その責任を自覚し、自己の人格を高めるように努める。
- 2) 医療の担い手は、医療に関する知識および技術の習得に努める。
- 3) 医療を提供するに当たり、医療者の助言は利用者本人の適切な自己決定を妨げる。
- 4) 医療の担い手は、職務上知りえた秘密を守らねばならない。

**問 3. 介護職員等の倫理規範について、下記の設問を読みもっとも適切な組み合わせを 1 つ選択しなさい。**

- ア 介護職員等は、医療的ケアを実施する上で利用者との信頼関係や公正性が必ずしも要求される職能ではない。
- イ 「日本介護福祉士会倫理綱領」では基本的人権の擁護をうたっている。
- ウ 2007 年には社会福祉士及び介護福祉士法の改正により、「常に利用者の立場に立って、誠実にその業務を行わなければならない」という誠実義務規定が新設された。
- エ 医療の担い手は、秘密保持義務規定により、チームメンバーにも個人情報伝えてはならない。

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問 4. 個人情報保護に関して、誤っているものを 1 つ選択しなさい。**

- 1) 個人情報とは、生存する個人に関する情報であって、氏名、生年月日等により特定の個人を識別できるものである。
- 2) 自己の個人情報は自分で管理し、他人がみだりに取得、利用または提供されないようにする必要がある。
- 3) 個人情報は、目的外の利用や第三者への提供には、原則として本人の同意が必要である。
- 4) 医療に関する個人情報は、本人から開示を求められても応じる必要はない。

**問5. 利用者・家族に対する説明と同意に関して、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 自己決定の前提には、決定に必要な情報がわかりやすく提供され、自由に決定できる環境が必要である。
- 2) 自己決定に必要な情報をわかりやすく説明することが重要であるが、その役割は医療を提供する者全員に求められているわけではない。
- 3) 子どもの場合でも、判断力の程度と治療や検査の内容によって同意できることもあり、インフォームドコンセント（説明と同意）は大切である。
- 4) 喀痰吸引や経管栄養の実施に際しては、必ず声かけを行って実施についての同意を得ることが重要である。

**問6. 利用者や家族の気持ちについて、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 利用者や家族の気持ちは不安によって変化することがある。
- 2) 利用者や家族は、一旦受け入れた胃ろう造設等に疑問を持つことはない。
- 3) 療養の経過に伴って、家族の中に新たな課題が出てくることもある。
- 4) 利用者や家族がもつ不安や心配、疑問には十分に耳を傾ける。

**問7. 保健医療制度の利用に関して、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 介護保険制度の受給者とは、要介護・要支援と認定された者である。
- 2) 介護保険制度における保険者は国が3割を負担している。
- 3) 介護保険制度においては、ケアプランの立案がなくても居宅サービスを利用できる。
- 4) 18歳の障害者は介護保険制度を利用できる。

**問8. 介護保険制度に関する設問で、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 介護保険の給付には「介護給付」、「予防給付」のほかに、「市町村特別給付」（横出しサービス）がある。
- 2) 介護保険給付の内容には「居宅サービス」、「入院サービス」がある。
- 3) 「認知症対応型共同生活介護」はいわゆる特別養護老人ホームと同様である。
- 4) 介護保険は要介護度ごとに区分支給限度基準額が設定されているが、支給限度額を超えるサービスを受けた場合、全額市町村負担となる。

**問9. 医行為とチーム医療に関して、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 医師法は、「医師でなければ、医業をしてはならない」と規定している。
- 2) 多職種がチームで活動するには、各職種の専門性を理解することが重要である。
- 3) 看護職員は、「療養上の世話」と「診療の補助」を行う。
- 4) 介護福祉士等は研修を修了することにより医師の指示を得て全ての医行為を実施できる。

**問 10. 介護職員と医師・看護職員の連携に関して、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) チーム医療のメンバーに、リハビリテーション関係職種、管理栄養士は含まれない。
- 2) 介護職員と看護職員は、互いの教育背景が違うので、利用者のとらえ方が異なるのも仕方がない。
- 3) 介護職員と看護職員は、問題が生じた時にのみ報告・連絡・相談しあえばよい。
- 4) 介護職員と看護職員は、情報を共有して互いに協力してそれぞれの役割を遂行する。

**問 11. リスクマネジメントについて、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) リスクマネジメントの前提にはベテランでも事故を起こすという考えがある。
- 2) 事故による被害者は、唯一利用者である。
- 3) リスクマネジメントは予防対策と事故対策をたてることである。
- 4) リスクマネジメントの実行には組織的な取り組みが必要である。

**問 12. 安全な喀痰吸引や経管栄養の実施に際して、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 生命を守る事を最優先にし、自信のない行為は確実に実施できる人に頼むことが重要である。
- 2) 喀痰吸引や経管栄養を実施するためには確実に実施できる力をつけることが重要である。
- 3) 自分がヒヤリとした、ハットしたことなどは、まわりの信頼を失うと考え、自分の名前は記載せず報告する。
- 4) 出来事の影響度分類では、何も影響が出なかった場合は、レベル0が該当する。

**問 13. 感染防御のための手洗いの注意点について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 指輪や時計を外す。
- 2) 爪は短く、マニキュアは落とす。
- 3) 洗い残しがもっとも多いのは手のひらである。
- 4) 蛇口の栓を閉めるときは直接触れないようにペーパータオルを使って閉める。

**問 14. 個人防護具のエプロン（ガウン）を着用する場面で、下記の設問を読みもっとも適切な組み合わせを1つ選択しなさい。**

- ア 利用者の衣服の着脱を介助するときは、エプロンを必ず着用する。
- イ 喀痰の吹き出しが非常に多く、吸引の際に周囲へ飛沫が起こる場合は、エプロンを必ず着用する。
- ウ 褥瘡や傷のある身体に密着しておむつ交換や体位変換するときは、エプロンを必ず着用する。
- エ 利用者の車イス移動の介助をするときは、エプロンを必ず着用する。

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問 15. 風邪の流行期の介護職員の健康管理について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 介護職員が風邪を引いている場合は、原則、ケアに入らない。
- 2) 介護職員の手を媒介に風邪ウイルス等が感染するので、いつも以上に手洗いを励行する。
- 3) 咳やくしゃみの飛沫が利用者や周囲の職員に感染させるもととなるので、「咳エチケット」を励行する。
- 4) 外気が入って利用者が風邪をひかないよう窓は閉め切っておくようにする。

**問 16. 療養環境の清潔について、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 不特定多数の人が出入りする高齢者施設は、家庭的な雰囲気大切にすため神経質にドアノブや手すりなど清掃する必要はない。
- 2) 湿ったところや水回りは細菌の温床になりやすいので、水気を拭き取り乾燥につとめる。
- 3) 喀痰吸引を実施している利用者の周囲は「たん」が飛散しているが、清掃は毎日する必要はない。
- 4) 喀痰吸引で使用した手袋やガウン、マスク等は、居室を出て、スタッフステーション等に戻ってから手順に沿ってゆっくりと外し廃棄する。

**問 17. 消毒薬の使い方と留意点について、下記の設問を読み適切な組み合わせを1つ選択しなさい。**

- ア 消毒する物品の消毒法はすべて同一方法である。  
イ 消毒薬の濃度は、濃いほど効果的である。  
ウ 消毒薬にちよつとつけるだけでは消毒効果は期待できない。  
エ 消毒薬を用いる場合には通常は 20℃以上の状態にする。

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問 18. 健康状態の確認項目の説明を読み、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 身体や心の不調により意欲が低下することがある。
- 2) 苦痛な症状があれば、眉間にしわが寄っていることがある。
- 3) 顔色が蒼白（そうはく）になっていれば、発熱している可能性がある。
- 4) 食欲がないときは、原因が何か聞いたり、観察したりする。

**問 19. バイタルサインとは何か、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 浮腫
- 2) 体温
- 3) 脈拍
- 4) 血圧

**問20. 健康状態を知る項目について、次の設問を読み適切な組み合わせを1つ選択しなさい。**

- ア 顔貌（がんぼう）は表情や浮腫などを観察する項目である。
- イ 脈拍を測定する部位は通常は橈骨（とうこつ）動脈である。
- ウ 酸素飽和度は体温計を用いて観察する。
- エ 意識レベルを観察した場合、呼びかけに応えなくても問題はない。

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問21. 呼吸のしくみについて、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 肋骨の骨折による痛みがあると、呼吸運動が行われにくくなる。
- 2) 血液中に酸素を取り込むために重要な働きをするのは白血球である。
- 3) 酸素と二酸化炭素が肺胞で交換されることをガス交換という。
- 4) 気管内部に異物がある場合には、せき反射が起こり異物を喀出する。

**問22. 呼吸状態に関する説明について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 体内で酸素を必要とする時には、呼吸回数が減ることが多い。
- 2) 咽頭や気管などで空気の通りが悪くなった場合、呼吸の音が変化することがある。
- 3) 安静時の正常な呼吸は、胸や腹が比較的一定のリズムで呼吸に合わせて膨らんだり、縮んだりする。
- 4) 呼吸困難には、息切れの軽い状態から息ができないほど重篤な状態まで多様である。

**問23. 介護職員等が行う「たん」の吸引の説明として、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 口腔内吸引とは、口腔から咽頭内の吸引のことである。
- 2) 介護職員等は、気管カニューレを越えた先にある「たん」を吸引してもよい。
- 3) 介護職員等が行う鼻腔内吸引とは、吸引チューブを鼻腔から挿入して咽頭にある「たん」を吸引することである。
- 4) 介護職員等は、医師の文書による指示を受けることで利用者の「たん」を吸引できる。

**問24. 吸引の準備について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 「たん」を吸引しやすくするために、利用者の姿勢を整える。
- 2) 清潔なものと汚染されたものの置き場所を分ける。
- 3) 事前に、吸引器の作動確認・点検をする。
- 4) 吸引に関する医師の指示書や看護職員からの注意事項は、初回のみ確認する。

**問 25. 次の「たん」の性状のうち、異常と考えられる組み合わせを1つ選択しなさい。**

- ア においの強い「たん」
- イ 赤茶色の「たん」
- ウ 無色透明な「たん」
- エ やや粘り気がある「たん」

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問 26. 人工呼吸器装着者において生命の危険を生じる可能性があり、最も迅速な対応を必要とする状態を1つ選択しなさい。**

- 1) 呼吸器の回路内に水滴がついている。
- 2) 気管カニューレ周囲のガーゼがたんで汚れている。
- 3) 人工呼吸器の作動が停止している。
- 4) 気管カニューレの固定ベルトが緩んでいる。

**問 27. 子どもの喀痰吸引について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 声をかけて、不安を取り除くように努める。
- 2) 吸引時間の目安は10秒以内である。
- 3) 新生児の吸引では、吸引チューブのサイズは大人より太くなる。
- 4) 乳幼児の吸引では、吸引圧は大人より低くなる。

**問 28. 呼吸器系の感染予防として、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 口腔・鼻腔内吸引を行う場合、毎回、手指消毒を実施して吸引操作を行う。
- 2) 寒い季節は、室温を高く、湿度を低く設定する。
- 3) 口腔内を清潔に保つ。
- 4) 居室の換気を行い、空気を清潔に保つ。

**問 29. 口腔内吸引時のトラブルと対応について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) たんの色がいつもと違うので、体温をはかり、看護職員に報告した。
- 2) 吸引の途中で利用者が吸引チューブを噛んだため、急いでチューブを引き抜いた。
- 3) 「たん」が粘調で吸引が困難だったため、看護職員と交代した。
- 4) 吸引圧が上昇しないので、吸引チューブの接続を確認した。

**問 30. 喀痰吸引前の観察について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 口腔内の吸引では、「たん」のからむ音や顔色、口腔内・鼻腔内などの観察が必要である。
- 2) 口腔内の吸引では、義歯がある場合は装着状態を観察する。
- 3) 気管カニューレ内部の吸引では、口腔内を観察する必要がない。
- 4) 気管カニューレ内部の吸引では、酸素飽和度や脈拍などの観察も重要である。

**問3 1. 喀痰吸引前の利用者の準備について、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 毎回、利用者に吸引の必要性を説明し、同意を得る必要はない。
- 2) 施設等では、プライバシー保護のためカーテン・スクリーンは必要ではない。
- 3) 気管カニューレ内部の吸引では、カニューレ内部が見えやすく清潔に吸引チューブが挿入できるよう、安楽な姿勢に調整する。
- 4) 鼻腔内の吸引では、上体を可能な限り拳上した方が、吸引チューブを挿入しやすい。

**問3 2. 口腔内・鼻腔内吸引の実施手順について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 吸引チューブの先端の水を、よく切ってから挿入する。
- 2) 通常、吸引圧をかけずに静かにチューブを挿入する。
- 3) 挿入した吸引チューブは、「たん」を取りきるため、動かさずに長時間とどめる。
- 4) 吸引後は、吸引チューブの外側を清浄綿等で拭いた後、洗浄水を吸引する。

**問3 3. 気管カニューレ内部の吸引の実施手順について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 吸引チューブの先端は、滅菌された手袋を装着して（またはセッションで）取り扱うことが望ましい。
- 2) 気管カニューレから「たん」があふれている場合は、吸引の圧をかけずに気管カニューレ内部まで吸引チューブを挿入する。
- 3) 原則、滅菌された洗浄水を吸引し、吸引チューブの内側を十分に洗浄する。
- 4) 人工呼吸器を装着している場合は、吸引後、速やかに気管カニューレに回路を接続する。

**問3 4. 喀痰吸引実施後の観察項目として、下記の設問を読み適切な組み合わせを1つ選択しなさい。**

- ア 腹痛・下痢の有無
- イ 口腔内・鼻腔内等の出血や傷の有無
- ウ 「たん」や唾液などの残留の有無
- エ 利用者の睡眠状態

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問3 5. 消化器系器官のはたらきについて、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 食物を摂取しそしゃくする。
- 2) 摂取した食物を消化器に運搬する。
- 3) 摂取した食物を酸素と二酸化炭素に分解する。
- 4) 消化した食物から栄養素を吸収し、不要なものを排泄する。

**問36. 嚥下のしくみについて、下記の設問を読みもっとも適切な組み合わせを1つ選択しなさい。**

- ア 嚥下の5段階において、第3段階は準備期といい食物を視覚や嗅覚などで認識する段階である。
- イ 口腔内から食塊が咽頭に送り込まれると、反射的に喉頭蓋が働き気管への流入を防ぐ。
- ウ 経管栄養中の利用者は胃から栄養剤等が逆流することもある。
- エ 経管栄養中の利用者は栄養剤が直接胃に送り込まれるので、唾液がでることはない。

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問37. 経管栄養が必要な状態について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 食事の好き嫌いが激しい場合
- 2) 脳の病気や認知症のため嚥下ができない場合
- 3) 嚥下の力が弱まることで誤嚥による肺炎や窒息のリスクが高まる場合
- 4) 意識障害などで食事がまったく摂れない場合

**問38. 栄養素に関する知識について、下記の設問を読み適切な組み合わせを1つ選択しなさい。**

- ア 三大栄養素とは、糖質（炭水化物）、たんぱく質、水分である。
- イ 糖質（炭水化物）とは活動のエネルギー源となり、食材としては肉や魚、卵等に相当する。
- ウ たんぱく質は体内でいろいろなものにつくり変えられて、身体を構成する栄養素である。
- エ 脂肪は1gあたり9kcal（キロカロリー）というエネルギー量を生み出すことができる。

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問39. 経管栄養のしくみと種類について、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 経鼻経管栄養法とは、口腔から胃までチューブを挿入して栄養剤を注入する方法である。
- 2) 栄養剤の種類や注入量は看護職員が決定する。
- 3) 胃ろうチューブ挿入部周囲からの消化液の漏れは、皮膚のびらんおよび感染を起こす危険性がある。
- 4) 胃ろうチューブは、体表面にチューブが突出しているチューブ型のものと、キャップで蓋をするボタン型があるが、いずれも看護職員が選択し挿入する。

**問40. 経管栄養の種類別の利点と欠点について、誤っているものを1つ選択ください。**

- 1) 経鼻経管の利点は、造設の処置が不要で挿入が比較的簡易である。
- 2) 胃ろうの利点は、短期間の経管栄養を行う場合には選択しやすいことである。
- 3) 胃ろうの欠点は、胃粘膜や造設部にびらんや潰瘍を生じることである。
- 4) 腸ろうの欠点は、造設には手術を必要とすることである。



**問4 1. 経管栄養実施上の留意点について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 栄養剤の注入時は、上半身を水平にして逆流を防止する。
- 2) 誤嚥性肺炎の原因は、胃の内容物が逆流し、気道に入って発生する。
- 3) 誤嚥性肺炎の原因は、食道裂孔ヘルニアや大きすぎる経管栄養チューブを使用している時に逆流を起こして発生する。
- 4) 経鼻経管栄養チューブ先端が胃の中に挿入されていることを定期的に医師や看護職員が確認する。

**問4 2. 経管栄養実施時に必要な物品について、適切な組み合わせを1つ選択しなさい。**

- ア イルリガートル
- イ 清浄綿（アルコール綿）
- ウ 吸引チューブ
- エ カテーテルチップシリンジ

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問4 3. 子どもの経管栄養について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 胃ろうの適応は、意識障害や嚥下障害、胃食道逆流現象があり、誤嚥性肺炎を繰り返し起こしている場合に用いられる。
- 2) 栄養剤を開封し使い切れなかった場合は、残さず廃棄する。
- 3) 子どもは、身体の成長があったとしても最初に用いた胃ろうチューブのサイズを変更してはならない。
- 4) 経管栄養において栄養剤のみでは微量元素の不足による合併症出現のリスクがあるため、可能なかぎり普通の食品を再調理して摂取することが望まれる。

**問4 4. 経管栄養に関係する感染予防について、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 経管栄養の準備の途中にコールが鳴り、一旦その場を離れたが、準備前に十分に手洗いをしたので戻ってからそのまま準備を継続した。
- 2) 環境整備の後、エプロンを変えずに経管栄養の準備をした。
- 3) 経管栄養チューブの挿入周囲の異常とは、浸出液、出血、びらん、皮膚の異常などである。
- 4) 経管栄養をしている人なので、口腔内の清拭は必要ではない。

**問 4 5. 経鼻経管栄養にて成人に栄養剤を滴下注入する確認事項について、下記の設問を読みもっとも適切な組み合わせを1つ選択しなさい。**

- ア 指示された栄養剤であるか、毎回、看護師から口頭確認する。
- イ イルリガートルの高さを利用者の胃部から 30cm 程度に調節する。
- ウ 400ml の栄養剤を 2 時間で注入との指示があったので、使用するイルリガートルの滴下数の規格（15 滴＝1ml）を見て、およそ 10 秒 10 滴に調節した。
- エ 注入開始後 30 分で経鼻カテーテルの挿入の長さを確認すると、35cm の目盛りが見えたので栄養剤の注入を止め、看護職員に連絡した。

- 1) ア・イ      2) イ・ウ      3) ウ・エ      4) エ・ア

**問 4 6. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認について、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 利用者の経鼻経管チューブが抜去しかかっているのを発見したので、チューブが抜けないように少し押し込んでから看護職員に報告した。
- 2) 利用者がおう吐したが、少量だったので様子をみながら注入を継続した。
- 3) 胃ろうチューブ挿入部から注入液が漏れていたが、少量なので注入を継続した。
- 4) 経管栄養注入開始後にしゃっくりが止まらないので、注入を中止し看護職員に報告した。

**問 4 7. 半固形剤を使用する場合の注意点について、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 半固形の栄養剤は基本的に経鼻経管栄養法の方に用いる栄養法である。
- 2) 半固形の栄養剤は栄養剤が逆流しやすい利用者に用いる。
- 3) 半固形の栄養剤は座位の時間を延長したい利用者に用いる。
- 4) 短時間で栄養剤を注入するので腸蠕動が低下する場合がある。

**問 4 8. 経管栄養の技術と留意点について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 使用物品の劣化、漏れ、汚染状況を観察して、問題があれば本人、家族、医師・看護職員に相談して交換する。
- 2) 複数の利用者がある場合、イルリガートルやカテーテルチップは清潔に扱えば、共用しても良い。
- 3) 胃ろうは、癒着や圧迫を防止するため、1日に2～3回、回転させるが、基本的に看護職員が行う。
- 4) 経管栄養を実施する際にはイルリガートルに直接日光が当たらないように、ベッドの位置を調節したり、遮光したりする。

**問49. 経管栄養の技術と留意点について、適切なものを1つ選択しなさい。**

- 1) 利用者が無意識に経管栄養チューブを抜去する危険性があるため身体拘束をする。
- 2) 経管栄養チューブのねじれや、周囲の物による圧迫がないように周囲の環境を整える。
- 3) 経管栄養チューブのクレンメを閉めると、点滴筒の滴下が速くなる。
- 4) おう吐や食道への逆流防止のため、一日中利用者の上半身を起こしておく。

**問50. 報告および記録について、誤っているものを1つ選択しなさい。**

- 1) 個人情報保護の観点から、連絡先などの情報は不用意に他人に伝えないようにする。
- 2) 担当者会議で関係者が集まった時には、利用者の意向や医師・看護職員の方針を聞いておくことが望ましい。
- 3) 胃ろうからの栄養剤の注入では、記録に実施時間、栄養剤の種類・内容のみ記載すればよい。
- 4) 記録は客観的に記述し、誰が見ても分かる表現や用語を使う。